

# 美 うっとり



## 浜野浦の棚田 (佐賀県玄海町)

佐賀県玄海町は、リアス式海岸がつづき、起伏に富む地形に棚田が点在する風光明媚な町。中でも浜野浦の棚田は夕日を背にした造形美が人気で、水が張られる4月下旬は特ににぎわう。原発以外の町の顔も知って——。町民は来訪を心待ちにしている。

海に注ぐ延長約2<sup>キロ</sup>の浜野浦川がつくる浸食谷に、大小283枚の棚田がある。1枚ずつの田を縁取るように咲いた菜の花の黄と海の青とが競演し、いま春らんまんの光景だ。

田が小さいと田植え機などを入れにくい。機械化に伴い、下段の田を上段の田と統合する「田普請」で、半世紀前より枚数が1割ほど減ったという。

そう教えてくれたのは、浜野浦棚田保全組合(13戸)の松本正弘組合長(65)だ。「私が中学に上がる頃までは田を鋤くのも、(土を柔らかくする)代かきも、まだ牛でしたから」

夕暮れまで農作業を手伝っていた松本少年を想像すると、ふと、童謡「朧月夜」の歌詞が頭

をよぎった。田植えが早いこの稲は盛夏に黄金色となり、お盆過ぎには稲刈りが始まる。9月には彼岸花が咲く。

戦国期から江戸期にかけて築かれたという棚田は、一部に自然石を使った石垣が残る。豊臣秀吉が朝鮮出兵に向け、近くの名護屋城を築く際、近江国(現在の滋賀県)から連れてきた石工の子孫が築いたとも。

そんな由緒ある労働の場を取り巻く風向きが変わったのは20年ほど前。写真集などで紹介され、デートスポットにもなった。松本さんの長女絵里香さん(32)は4年前、棚田を見下ろす展望台で披露宴をした。

4月20日ごろ始まる田植えで水が張られると、海に落ちる夕日が反射し、あぜの曲線との幻想的な影絵が浮かび上がる。たくさんの人たちが、刻々移ろう色合いをカメラに収めようと狙う。好機は、5月の連休までの2週間だ。

(原口晋也)



チェンジから県道50号を唐津市竹木場約30分。博多・天神方面から高速バス(大手口)で路線バスに乗り換え、浜野浦はJR唐津駅からのレンタカーだ。

14日。瀬戸内海に面した田園風景に童謡、山口県田布施町を訪ねます。